

CSR活動活用 経営手法を紹介

エネジン社長が本に

LPガス販売などを手掛けるエネジン（浜松市中区）の藤田源右衛門社長（五〇）が、CSR（企業の社会的責任）活動を本業につなげる経営手法をまとめた本を出版した。「いいものを持っているのに生かせていない中小企業のヒントになれば」と話している。

本は「なぜ、地域のお役に立つと会社は成長するのか」（あさ出版）。同社のCSR活動の事例を挙げ、他の会社や団体と連携する「アライアンス」で取り組みの効果を倍増させる方法を強調。連携先の選び方のコツや事例も記した。新聞

などのメディアを通して市民に活動を知ってもらうことが重要だとして、情報発信の手法も紹介している。

同社がCSR活動を本格的に始めたのは、二〇一二年に太陽光発電システムの販売に参入し、小学校で自然エネルギーに関する出前授業をしたのがきっかけ。以後、自治会の防災訓練の手伝いや母親たちの交流の場の提供など、さまざまな取り組みをしてきた。

「中小企業がCSRに取り組むことで地域を元気にしたい」と、昨年春から書籍化に着手。これまでに蓄積した企画書や提案書を基に内容を肉付けし、読みやすいように工夫した。四六判二百十六ページ、税別千五百円。書店やネット通販で購入できる。（山田晃史）



「中小企業のCSR活動のヒントになれば」と本を紹介するエネジンの藤田源右衛門社長＝浜松市中区で

2020年（令和2年）5月26日（火）中日新聞